

# 92

講師用テキスト

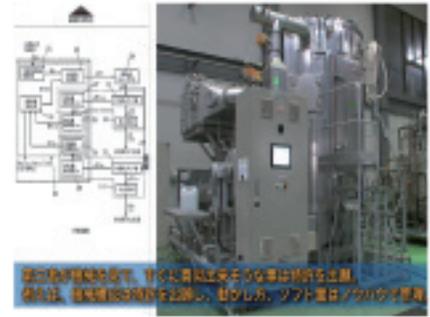
## 特許出願における オープン・クローズ

オープン化で事業領域を拡げ、クローズで収益を確保することを理解

自社開発した独自技術を守り、攻めるために、  
オープン・クローズ戦略を行う。



### この動画のおさらい



●醸造機械のリーディングカンパニー！創業以来、醤油、味噌、清酒、焼酎など日本の醸造食品を生産するための機械を手掛けてきた。そんなフジワラテクノアートの技術力の高さを世に広めたのが、自動製麹装置。これまで人の手でないと出来ない、機械では無理だとされてきた、【麹づくり】を日本で初めて自動化に成功させた。国内において製麹機械は、80%のシェアを誇る。時代とともに、日本の醸造技術が海外でも注目されるようになり、また日本の醸造食品メーカーの海外現地工場の設立なども多くなると、醸造機械・プラントの輸出も増加。岡山県から日本を飛び出し、今では世界20か国以上に機械や、装置、プラントの輸出を行っている。醸造分野で培ってきたノウハウを活かし、ろ過・粉体殺菌機械も開発。一般食品業界やバイオ業界にも注目を浴び、卓越したプラントエンジニアリング力で世界の食文化を陰で支えている。

#### ●技術をいかにして守り、攻めるのか！

自社開発した技術を守るために、フジワラテクノアートでは、積極的に特許出願を行っている。その特許出願に関して、すべての技術を特許出願するわけではない。機械や装置開発を行うため、納入後は誰でも機械や装置を見ることができる。それ故にすぐわかるもの=真似する事が出来るものは特許出願し、機械や装置の操作・ソフトの面などは、ノウハウとして管理し、自社の開発技術を守っている。いわゆる、オープン・クローズ戦略を行っている。

### memo



## スタディーケースについて 以下の設問について考察しましょう。

動画視聴時に当社事業の“成長戦略”や“将来のあるべき姿”を考えた時の課題、ポイントがどこにあるか、担当者や役員などへのインタビュー、受講者自身がその立場に立った時にどのように考えるか、留意して視聴しましょう。

1. 当社の成長戦略としてどのような戦略が考えられるでしょうか？  
また、その実行プランと課題を列挙しましょう。

2. グループディスカッション（グループ内で役職を決めます）  
当社の役員が課題として挙げた知財戦略の浸透について各職位においてどのように考え行動するかディスカッションしグループの意見をまとめましょう。後ほど発表してもらいます。

まとめ

受講者自身が会社や業務においてこれから果たすべき役割に付いて述べてください。

# 92

受講者用テキスト

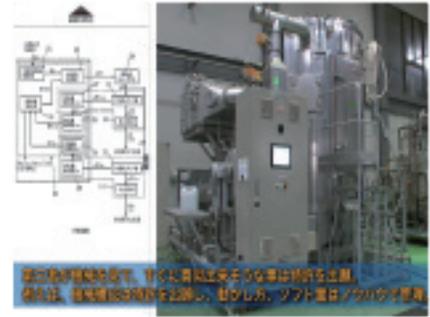
## 特許出願における オープン・クローズ

オープン化で事業領域を拡げ、クローズで収益を確保することを理解

自社開発した独自技術を守り、攻めるために、  
オープン・クローズ戦略を行う。



### この動画のおさらい



●醸造機械のリーディングカンパニー！創業以来、醤油、味噌、清酒、焼酎など日本の醸造食品を生産するための機械を手掛けてきた。そんなフジフロンテックの技術力の高さを世に広めたのが、自動製麹装置。これまで人の手でないと出来ない、機械では無理だとされてきた、【麹づくり】を日本で初めて自動化に成功させた。国内において製麹機械は、80%のシェアを誇る。時代とともに、日本の醸造技術が海外でも注目されるようになり、また日本の醸造食品メーカーの海外現地工場の設立なども多くなると、醸造機械・プラントの輸出も増加。岡山県から日本を飛び出し、今では世界20か国以上に機械や、装置、プラントの輸出を行っている。醸造分野で培ってきたノウハウを活かし、ろ過・粉体殺菌機械も開発。一般食品業界やバイオ業界にも注目を浴び、卓越したプラントエンジニアリング力で世界の食文化を陰で支えている。

#### ●技術をいかにして守り、攻めるのか！

自社開発した技術を守るために、フジフロンテックでは、積極的に特許出願を行っている。その特許出願に関して、すべての技術の特許出願するわけではない。機械や装置開発を行うため、納入後は誰でも機械や装置を見ることができる。それ故にすぐわかるもの=真似する事が出来るものは特許出願し、機械や装置の操作・ソフトの面などは、ノウハウとして管理し、自社の開発技術を守っている。いわゆる、オープン・クローズ戦略を行っている。

## 成功ポイント

事業戦略において知的財産権は痛手、特に最近では多くの技術開発が進んだことから、権利範囲を広い、強い特許権を生み出すことが難しくなっており、特許明細書の記載内容は技術範囲を特定して記載していく傾向にあるといえます。詳しく記載すれば、それだけ技術を明らかにすることとなり、適切な明細書を作成しなくてはノウハウが流出することにもなりかねません。一方、明細書に具体性が無ければ特許査定されないこととなり、権利を確保することができません。特許出願で全部の技術を公開するのか、一部に抑えるか、すべて秘密にするか。模倣を防ぐならば、ノウハウとして秘密にすればいいですが、他社に類似技術の特許登録された時は、その企業より早く使用していたことを立証してはなりません。また、特許情報のグローバル化により主要国の知的財産権情報はインターネットで検索閲覧することができることから、外国であっても情報は公開されています。

このような中で本件のオープン・クローズ戦略をどのようにとらえていくか。事業戦略から考えるオープン・クローズ。オープン化は、知的財産権の有無に関係なく、保有する経営資源を第三者に対して使用を許諾し事業展開を図り、市場規模拡大を目的に他社と協調していくこと。クローズ化は自社のみが独占的に事業を行い、市場シェアの拡大確保を目的に、技術のブラックボックス化や知的財産権による障壁を設けることとなる。特許出願すると特許査定・登録の成否にかかわらず、原則として公開されるため、他社に開発動向を把握されたり、模倣されたり、周辺特許を取得される可能性があります。事業戦略としては自社技術を明示して他社をけん制し、特許査定されれば権利活用によりライセンスや標準化することで市場優位性を持つ市場の拡大が期待できます。

事業のビジネスモデルを踏まえ、オープン化・クローズ化する領域を明確にして事業戦略を設定していくことが重要となります。この設定を曖昧にすると戦略が機能しない上に事業そのものの競争力や優位性を失いかねません。オープンにすることによる事業の広がり、クローズにすることによる自社ビジネスの競争優位確保、このバランスをとることが大切です。フジフロンテックのように全社員がオープン・クローズ戦略について理解を深め、事業を広げるために公開して良いこと。自社を守り競争優位に立つために秘密とすることが、以前にも増して必要となってきています。知的財産権のオープン・クローズを考えることは、社員一人一人が持つべき戦術として習得しておくべきものになってきています。

フジフロンテックの醸造食品機械は、構造、機構、部品形状、生産方法、制御方法…等、さまざまな技術とともに製造ノウハウを組み合わせて装置を構成しています。このような技術を事業展開から考え応用範囲を広げ、オープン・クローズ戦略を考えていこうとする事業活動は模範的であり、大いに参考とするべきものといえます。



桑原良弘  
知財活用プロデューサー  
ディスペロ

大手メーカーで生産設備や独自商品の開発設計・商品化に従事した後、コンサルティング会社にて、新事業・新商品の開発・知的財産の権利化に16年携わる。同時期に中国経済産業局特許流通アドバイザーとしても活躍。2007年より独立、製造業の顧問や地域機関と連動した企業の開発支援などに奔走中。



## スタディーケースについて 以下の設問について考察してください。

動画視聴時に当社事業の“成長戦略”や“将来のあるべき姿”を考えた時の課題、ポイントがどこにあるか、担当者や役員などへのインタビュー、受講者自身がその立場に立った時にどのように考えるか、留意して視聴しましょう。

1. 当社の成長戦略としてどのような戦略が考えられるでしょうか？ また、その実行プランと課題を列挙しましょう。ディスカッションしてグループの意見をまとめましょう。

2. グループディスカッション（グループ内で役職を決めます）  
当社の役員が課題として挙げた知財戦略の浸透について各職位においてどのように考え行動するかディスカッションしグループの意見をまとめましょう。

まとめ

受講者自身が会社や業務においてこれから果たすべき役割について述べてください。